TOKYO BAPTIST CHURCH 東京バプテスト教会
Weekend Message
週末メッセージが聞けます http://tokyobaptist.org/sermons/

王が来られた II

それから、終わりが来る　マタイ 24:1—14

2023 年 4 月 29 日& 30 日
余沢　武　牧師

I. はじめに

こんにちは。今日は、マタイの学びに戻りましょう。私たちはイエスが次のことをしたのを見てきました。

1 ロバに乗ってエルサレムに入ってきました。神の民を救うために来たメシアであることを宣言しました。
2 神殿を清めました。イチジクの木を呪いました。
3 ユダヤの指導者たちに 7 つの災いについて、そして彼らが神の子とその弟子たちを殺害しようとしていたことを宣告しました。イエスのよると、神はエルサレムとその神殿に見切りをつけようとしていました。

今日は、このことが実際にどのように行われたかを見ていきます。
その前に、祈りましょう。

II. それから、終わりが来る
(1) 預言

マタイ 24:1-2
「イエスが神殿の境内を出て行かれるとき、弟子たちが近寄って来て、イエスに神殿の建物を指さした。イエスは言われた。『このすべての物に見とれているのか。よく言っておく。ここに積み上がった石は、一つ残らず崩れ落ちる。』」

イエスは、神はイスラエルを見捨てると宣言されたばかりでした。イエスは言われました。「お前たちの家は見捨てられて荒れ果てる。」しかし、弟子たちはまだ理解することはできませんでした。彼らはイエスに注目しました。マルコ 13:1 によると、弟子の一人が言いました。「先生、御覧ください。なんと見事な石、なんと立派な建物でしょう。」

実際、それはとても立派でした。ローマ帝国時代の世界の不思議のひとつとされていました。ローマの歴史家タキトゥスは、「莫大な富」の場所であったと述べています。
バビロニア・タルムード：「ヘロデの神殿を見たことのない者は、立派な建物を見たことがない」。

神殿は白の大理石に金メッキを施したもので作られていました。遠くから見ると金の山のように見え、それが太陽の光で反射し、眩しすぎて直視できないほどでした。ユダヤ人にとって、神の臨在の栄光を象徴していました。しかし、イエスにとって、それは何の意味もありませんでした。

イエスは言われました。「よく言っておく。ここに積み上がった石は、一つ残らず崩れ落ちる。」これは預言でした。人間の予言は、たいてい当てにならないものです。しかし、イエスの預言はそうでありません。神自身が語っているからです。必ず実現すると確信できるのです。

AD70 年の、その 40 年後にテトスがエルサレムを征服したとき、この壮大な神殿は保存するようにと命じました。しかし、兵士が放った火で破壊されてしまいました。その結果、テトスの気がかわり、神殿全体を焼き払って、溶けた金塊を集めるために石を引き抜くように命じて、一つの石さえも残されませんでした。

現在残っているのは礎石だけで、建物の石は残っていません。イエスは言いました。「よく言っておく。ここに積み上がった石は、一つ残らず崩れ落ちる。」そして、神殿から去りました。

(2) 質問

マタイ 24:3-13
「3 イエスがオリーブ山で座っておられると、弟子たちが、ひそかに御もとに来て言った。「おっしゃってください。そのことはいつ起こるのですか。また、あなたが来られて世の終わるときには、どんな徴があるのですか。」4 イエスはお答えになった。「人に惑わされないように気をつけなさい。5 私の名を名乗る者が大勢現れ、『私がメシ

アだ』と言って、多くの人を惑わすだろう。6 戦争のことや戦争の噂を聞くだろうが、慌てないように注意しなさい。それは必ず起こるが、まだ世の終わりではない。7 民族は民族に、国は国に敵対して立ち上がり、方々に飢饉や地震が起こる。8 しかし、これらはすべて産みの苦しみの始まりである。9 その時、人々は、あなたがたを苦しみに遭わせ、殺すだろう。また、私の名のために、あなたがたはすべての民に憎まれる。10 その時、多くの人がつまずき、互いに裏切り、憎み合うようになる。11 また、偽預言者が大勢現れ、多くの人を惑わす。12 不法がはびこるので、多くの人の愛が冷える。13 しかし、最後まで耐え忍ぶ者は救われる。」

弟子たちは、「そのことはいつ起こるのですか。」つまり神殿がいつ破壊されるか、と聞きました。彼らはイエスの再臨、裁きの時と同じ出来事だと思っていましたが、実際別の出来事でした。

イエスは、神殿が破壊される前、つまり神殿の終わりの前に起こる 5 つのことを彼らに告げました：
1「私の名を名乗る者が大勢現れる」
2「戦争のことや戦争の噂を聞く」
3「飢饉や地震が起こる」
4 その時、人々は、あなたがたを「苦しみに遭わせ」、迫害を受ける。多くの人が「つまずき」互いに「裏切り」、「憎み合う」ようになる。
5「偽預言者が大勢現れ」、「不法がはびこる」、「愛が冷える」

覚えておいてほしいのは、イエスがそうなると言ったなら、それは起こるということです。神殿が AD70 に滅ぼされた前に：
1. 多くの人がメシアとして、反乱を起こすようになった：使徒言行録には、テウダ（使徒 5:36）、ガリラヤ人ユダ（使徒 5:37）、エジプト人（使徒 21:38）による反乱について書かれています。
2. 戦争や、戦争の噂があった： AD36 年には、ローマ帝国はパルティアと戦いました。AD40 年には、ローマがエルサレムを攻撃するという噂がありました。AD 66-67 年には、イスラエルはローマとの戦争を開始しました。
3. 飢饉と地震：AD45-47 年には、ユダヤで飢饉があり（使徒 11:27-30）、AD37 年と 42 年にはアンティオキア、AD60-61 年にはラオディキア、AD67 年にはエルサレムで地震が起きました。
4. 迫害：ステファノは石打にされました。ヤコブは斬首されました。ペテロとパウロは迫害されました。
5. 偽預言者：教会には不法、つまり聖書に反する道徳的規準を教える偽教師がいました。そして、神を愛し、人を愛することをやめた者もいました。

イエスはこれらすべてを預言しました。しかし、それらは、神殿がすぐに破壊されるという「徴（しるし）」ではありませんでした。これらは、「**労苦の始まり**」に過ぎないのです。

（3）答え
イエスは続けます。
マタイ 24:13-14
「しかし、最後まで耐え忍ぶ者は救われる。そして、この御国の福音はすべての民族への証しとして、全世界に宣べ伝えられる。それから、終わりが来る。」

イエスによれば、これらのことは私たちの信仰や福音を広めることを妨げるべきではないと言います。これはパウロの人生の中でも見ました。イエスが復活した時から、神殿が破壊された間まで、彼の信仰は成長して、福音が広がりました。これは使徒言行録にあります。

このことは、私たち全員への忠告です。なぜなら、私たちも、このような時代に生きているのです：
1 メシアを名乗る人たちがいます。メシアを名乗る指導者がいるカルト集団があります。
2 今も戦争と戦争のうわさが続いています。
3 大きな地震と津波が起きました。
4 迫害 - 世界は聖書的な道徳から遠ざかっています。私たちは、次のようにいうことによって迫害を受けることがあります。「結婚以外の性的関係は罪である」、あるいは「結婚は男と女の間でするものである」、子供たちにこれらを教えることさえ、今はリスクになりかねない。
5 一部の聖書教師は、自分たちの教えをこれに準じて調整している人たちもいます。不法と不道徳を教会に紹介し、人々が神の御言葉に基づいて神と他人を愛することを止めてしまいました。

しかし、落胆しないでください。イエスはこう語っています。私たちは最後まで信仰を持ち続けら

れます。このような条件のもとでも、福音を世界に広めることができます。

でも、どうしたらできますか？数週間前に、私たちは次の事を学びました：神の御言葉を従いやすいように変えてしまおうと試みたパリサイ人のようになってはなりません。私たちは道徳、結婚の定義、ライフスタイル、子育てに関して、この世のものに倣ってはいけないのです。

しかし、プレッシャーがなくても、聖書にある道徳、聖書にある結婚の定義、聖書的なライフスタイル、聖書的な子育てに従うのは十分大変です。ましてや、教会の外からも中からも圧力がかかっていては、シンプルに不可能です。では、パウロはどうやってできたのでしょうか。

＃1 自分の罪を自覚して、イエスに頼りました。1テモテ 1:15-16 でパウロは言いました。「しかし、私が憐れみを受けたのは、キリスト・イエスがまず私に限りない寛容をお示しになり、この方を信じて永遠の命を得ようとしている人々の手本となるためでした。永遠の王、不滅で目に見えない唯一の神に、誉れと栄光が世々限りなくありますように、アーメン。」

迫害の中でも、パウロは自分の罪深さを理解して、イエスの憐れみに完全に頼っていました。このような困難の中で、私たちもイエスのもとへ行くべきです。
1 へりくだって告白する。「私はあなたの命令に従うことができません。私にはその能力がなく、他の人を恐れています。」
2 イエスに赦しと助けを求める。
3 主の聖霊によって、たとえ迫害やプレッシャーを受けても、どうにか変えてくれます。私たちの人生は変わるでしょう。私たちの家族も変わるでしょう。その時、世界は「福音の力」を見るのです。それを見て、手に入れたいと思う人たちが出てきます。そのように福音は広まるでしょう。

＃2 神の恵みは十分だと覚えておく。神は、私たちの弱さ、困難、恐れ、病気、罪深い性質のすべてを取り除いてくれない時があります。

パウロは、2コリント 12:7b-10 でこう言います。

「それで思い上がることのないようにと、私の体に一つの棘が与えられました。それは、思い上がらないように、私を打つために、サタンから送られた使いです。8 この使いについて、離れ去らせてくださるように、私は三度主に願いました。9 ところが主は、「私の恵みはあなたに十分である。力は弱さの中で完全に現れるのだ」と言われました。だから、キリストの力が私に宿るように、むしろ大いに喜んで自分の弱さを誇りましょう。10 それゆえ、私は、弱さ、侮辱、困窮、迫害、行き詰まりの中にあっても、キリストのために喜んでいます。なぜなら、私は、弱いときにこそ強いからです。」

パウロのとげが何であったかはわかりません。それは、ある弱さ、苦難、病気、自分が苦しんでいた罪深い性質だったかもしれません。それが何であれ、彼はそれを取り除いてくれるよう神に懇願しました。しかし、神は「ノー」と言い、そのままにしました。

だから、この一つにことにおいて、パウロは常に神の恵みと助けに頼らねばならなかったのです。

神は私たちにも同じことをしてくださいます。私たちがへりくだって助けを求めると、神はそのほとんどの問題を取り除かれますが、すべて取り除くとは限りません。私たちにいくつかの弱点、苦難、病気、または私たちが苦しんでいる罪深い性質を残すでしょう。そして、私たちはそれを取り除いてくださるよう、神にお願いするでしょう。

「私の恵みはあなたに十分である。力は弱さの中で完全に現れるのだ」と言うでしょう。そして、その弱さを通して、私たちは常にへりくだって、常に主の恵みに頼ることを学ぶのです。時には、イエスとの関係を通してある平安が、他の人をイエスに引き合わせることになるのです。

あるクリスチャンの看護師が、イエスを知りたいと思ったきっかけを私に話してくれたことを今でも覚えています。その理由は、死に近づいているクリスチャンのがん患者さんの内に平安と喜びを見たからで、その平安と喜びに惹かれて教会に行くことにしたと言っていました。

イエスによれば、苦難は福音の働きを妨げることはないのです。むしろ、強めるのです。

なぜなら、それは私たちをより主に頼らせるからです。そして、人々の心を変えるのは、主と主の力なのです。

皆さんの中には、自分の弱さ、苦労、恐れ、病気、あるいは自分の罪深い性質を今すぐ解決したいと苦しんでいる人がいるかもしれません。あきらめないで、主のもとに行き続けてください。主の恵みは十分です。私たちがどれだけイエスに依り頼んでいるか周りが見えるようにしましょう。私たちが弱いときこそ、私たちは強くなれるからです。

私たちの弱さを通して、福音が広がりますように。

指定のない限り聖書は協会共同訳を使用しています。
聖書　協会共同訳: ©日本聖書協会
Japan Bible Society, Tokyo 2018

キリストのことをもっと知りたい
洗礼を受けたいという方はこちら
メール：cc@tokyobaptist.org
もしくは：https://t-b-c.us/cc

TBC Life 申込み
（毎週届くメールニュース）
http://t-b-c.us/tbclife

SG レッスンの PDF
https://t-b-c.us/sg1823jp

★クラス 301
賜物発見クラス
5 月 13 日（土）13:30～17:30
参加条件: クラス 101/201 を修了していること

★クラス101
教会員になるためには
6 月24日（土）13:30～17:30
参加条件: どなたでも

https://t-b-c.us/classes

オンライン献金
http://t-b-c.us/give

スモールグループ参加申込み
http://t-b-c.us/sgsu